



2026年2月8日に徳島県が南海トラフ巨大地震の被害想定を改定しました。マグニチュード9級の南海トラフ地震が発生した場合、県内24市町村の最大震度は6強~7と予測されています。死者数は約2万1700人で、内訳は津波による死者が約1万8000人、建物倒壊による圧死が約3500人、火災による死者が約150人、急傾斜地での土砂崩れによる死者が約40人、建物の全壊・焼失棟数は約8万1100棟とされています。千松の校区での被害想定を見てみると、揺れの強さは6強。液状化の危険度は極めて高いようです。また近年は、台風や局地的な集中豪雨による水害や土砂災害も多く発生しています。このような状況において、あらゆる自然災害について知識を深め、自他の命を守ることができる力を子どもたちにもつけていく必要があります。

ほかにも、家庭で必要なものは日ごろから備えておきましょう

参考：首相官邸 HP より

「共に感じ、考え、行動する『光る子』の育成を目指して」

保護者の皆様、日頃より本校の教育活動へのご理解と温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。人権学習における宿題へのコメント記入や、家庭での温かい声かけなど、学校での学びをご家庭で共有し、共に対話を重ねていただきましたことに心より感謝申し上げます。

昨年度の取り組みを通し、子どもたちには「相手の気持ちに寄り添う姿」や「いじめを許さない意識」が育ち、友達同士で認め合うことで自尊感情も高まってきました。ご家庭での温かい対話が、子どもたちの確かな成長を支えています。一方で、人権の大切さを頭では理解していても、実際の日常生活の中で「自分事」として捉えて行動に移すことや、自分の気持ちを言葉で丁寧に伝えて相手を傷つけないようにすることには、まだ課題も見られます。そこで今年度、千松小学校ではただ「聞く」だけの学習で終わらせず、実際に見て体験する機会を大切に、「体験 → 話し合い → 振り返り → 一般化 → 適用(実践)」という学習サイクルを徹底してまいります。アサーションタイム(言葉の伝え方トレーニング)やキラキラツリーなどの活動を通し、学びを日常生活での実践へとつなげていきます。

人権教育は、他者と協調しながらたくましく主体的に生きる力を育む教育です。今後とも、ご家庭と学校が手を取り合い、子どもたちの豊かな心を育てていけますようご協力のほどよろしくお願いいたします。

つながりを大切に ～クラブ活動～

クラブ活動は、共通の興味・関心を追求する活動を自発的・自治的に行うことによって、自主性・社会性を養い、個性の伸長を図ることを目的としています。また、異なる学年や学級の児童が、協力しながら活動することで、人とつながる楽しさを味わえるようにしています。本校には、16種類のクラブ活動があり、4年生以上の子どもたちが、自分の興味のあるクラブに入って活動しております。

今年度初めてクラブ活動をする4年生は、他の学年と関わることに少し緊張する様子もありましたが、先輩たちと楽しく交流する姿が見られるようになりました。5年生は、昨年度とは違うクラブ活動にチャレンジする子も多くいて、自分の興味・関心を広めている様子が見られました。最高学年の6年生は、これまで見てきた先輩方の姿から学び、クラブの中心となって4年生・5年生に声をかけて引っ張ってくれています。中には、部長や副部長、書記に進んで立候補する子も多くいて、自分の仕事に責任をもって取り組んでいます。

どの学年もクラブ活動後には、楽しかった思い出を嬉しそうに話してくれ、次のクラブ活動を待ち遠しく感じているようです。これからも、子どもたちの自主性や社会性を大切にしながら、子どもたちが周りの人と対話をしてつながることで、生き生きと活動ができるよう、指導・支援に努めていきます。

